

information



みどりの東北

welcome

新任者略歴紹介

※平成23年4月1日付



総務課長
堀内桂二
Keiji Horiuchi
(宮城県)

昭和47年4月／青森局白石署採用
平成16年4月／東北局仙台署次長
平成19年4月／東北局企画調整室監査官
平成20年8月／東北局森林整備課長



森林整備課長
高橋和美
Kazumi Takahashi
(秋田県)

昭和47年4月／秋田局監査課採用
平成16年4月／東北局米代西部署次長
平成18年4月／東北局仙台署次長
平成20年8月／東北局金木支署長



金木支署長
木村光一
Kouichi Kimura
(青森県)

昭和52年4月／青森局人事課採用
平成17年8月／東北局総務課広報主任官
平成19年4月／東北局三陸北部署次長
平成21年9月／東北局計画部流域管理指導官

ミニコラム

「へえ〜、そうなんだ!」

イモリとサンショウウオ

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長

青山一郎

Ichiro Aoyama

両 生類でも、活発なカエル（無尾目）と比べると影の薄い、イモリやサンショウウオの仲間、有尾目。今回は、雪融けの水辺で出会う彼らのご紹介。

お馴染みのアカライモリは里の水田から高山の池まで広く生息し、昼も夜も水中でも陸上でも活動的だ。凸凹で丈夫そうな皮膚だけ見てもサンショウウオとは別物と判る。特徴の赤い腹はフグ毒を持つことを示す警戒色。とはいえ、触れるくらいなら問題はない。観察会では子供達の人気者で、競って捕まえる。止める必要はないが、口に入れるのは制すべき。

サンショウウオの名の由来は「山椒の匂いの魚」で、西日本に棲むオオサンショウウオは本当に匂うというが、東北に棲む小型種に匂いはない。水中で見かけるのは主に幼生。成体は産卵期以外は陸上で暮らす。乾燥に弱いため出会うのは稀で、倒木などを反すと下で休んで

いたり、降雨時に林床を歩いているのが見られる。幼生はカエルよりゆっくり育つので安定した水域に棲むが、種による水場の嗜好は明確。

ハコネサンショウウオの幼生は溪流に棲み、流れに抗うため小さな指に立派な黒い爪を持つ。見られる大きさが概ね3タイプなので、3年は幼生でいるようだ。成体も含め、色も形も特徴的。

トウホクサンショウウオの産卵場所は湧水や流れ込みのある止水で、卵は透明なバナナ型。成体には青白い斑点のあるものが多い。

クロサンショウウオの産卵場所は流入のない池などの溜まり水で、奴のいる水だけは飲む気にならない。親子ともトウホクと似ており、また、たまには同居もしているが、卵は白く濁ったアケビ型で一目瞭然。成熟した成体はより大きく大きく尾が長い。

東北局管内に生息する有尾目は以上の4種のみ。見かけた際には是非ご注目を。



アカライモリ



ハコネサンショウウオ
(成体)



ハコネ
(幼生)



トウホクサンショウウオ
(成体)



トウホクサンショウウオ
の卵囊



トウホクサンショウウオ
(幼生)



クロサンショウウオ
(成体)



クロサンショウウオの
卵囊